

葵の会 秩父長瀬散策の報告

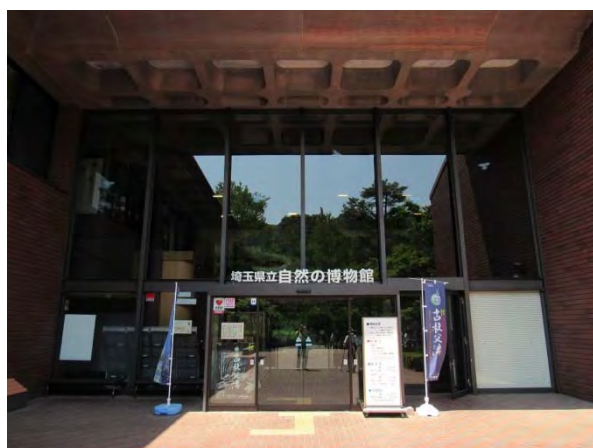
文/西脇英夫 写真/仲山富夫

“ああ皐月 古秩父湾の 堆積岩 私はナウマン あなたも賢治”



五月晴れの 5 月 19 日、日本地質学発祥の地、荒川上流の長瀬散策に 宮沢賢治に詳しい講師の小川先生以下 14 名が参加しました。

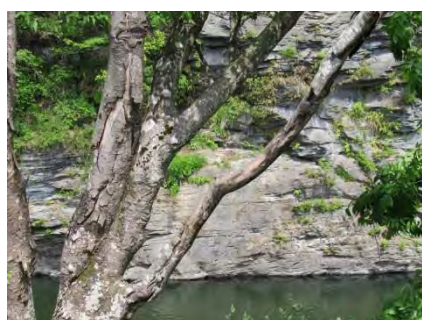
成分で紅、黒、黄緑、褐色と色合いが変わる石英片岩や、堆積層の褶曲を示す 100 億年前の岩石の実物や 1700 万年前までここが古秩父湾という海で、国指定の天然記念物に指定された海棲哺乳類の全身骨格や長さ 16m もの巨大サメの化石など……。埼玉県立自然の博物館ではボランティアの方が熱心に 1 時間も説明をしてくださいました。



↑ 埼玉県立自然の森博物館



↑ 自然の森博物館前庭



↑ 長瀬 荒川

長瀬の河原近くでお弁当ののち、前々日の雨に洗われ、緑が一段と鮮やかな樹間を縫っての岩層散策です。賢治が句（後出）にした「虎石」を手始めとして、歩きにくい河原を 3 Km あまり、杖を突き、時に仲間の方に手を貸して支えられながら長瀬駅まで歩きました。博物館で見た色鮮やかな紅簾石石英片岩は見られませんでした。途中で出会った人からは、山を越して半日以上かかっていた行程が 3 分の 1 に短縮できたという対岸の「崖の栈道」をまた、直径 15cm くらいの「ポットホール（鷗穴）」も指して教えても

らいました。比較的柔らかい頁岩のくぼみに石英片岩のような硬い石が入ると水の渦巻き運動により硬い石がくるくると回ってくぼみを深く削り、長い年月の間には直径 1.5mものポットホールにまで成長することもあるそうです。



↑ 旧新井家住宅

長瀬の木々の間から青空の外を仰ぎつつ、造山運動と1700万年前の古秩父湾の隆起など地球の悠久さに想いを馳せ、人類の出現以降 300 万年、我が生命の小ささを感じました。

最後に、国指定重要文化財、旧新井家住宅と隣接する長瀬町郷土資料館を訪ね、一面のひなげしの丘を眺めて、「ああ皐月 仏蘭西の野は 火の色す きみもコクリコ われもコクリコ」の晶子の句を思い出しました。 文頭のつたない句はそのもじりです。

以下は、この度 出会った句碑です。

つくづくと 粋なもやうの 博多帯
薬師あり 汲めども尽きぬ 泉あり
猪が来て 空気を食べる 春の峠
ここに我 句を留むべき 月の石
谿の音 遠く澄いて 春の夜の あけやらぬ庭に 鶯の啼く 若山牧水 (同上)

宮沢賢治 (虎岩付近)
高浜虚子 (自然の博物館敷地内)
金子兜太 (長生館)
高浜虚子 (同上)
高浜虚子 (同上)



↑ 宮沢賢治句碑



↑ 高浜虚子句碑



↑ 金子陶太句碑



↑ 若山牧水歌碑

仲間との連帯、そして気宇壮大な地球史とわが
命のかなさを感じた薫風の日でした。

